

# 挑戦! 緑内障への多角的アプローチ

日時

2017年10月12日(木) 12:20~13:20

会場

第7会場 (東京国際フォーラム ホールD5)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号



座長

中澤 徹 先生

東北大学大学院医学系研究科  
眼科学分野 教授

## 座長のことば

緑内障の病態は網膜神経節細胞およびその軸索の障害であり、早期の診断と適切な治療が患者さんのQOV維持に重要である。視神経乳頭における血流測定の普及に伴い、緑内障の視野・構造障害と血流の関連性など病態解明につながる報告が増え、緑内障診断の精度は向上しつつある。治療においては、眼圧管理の重要性は周知の事実であるが、病型もしくは個々の患者レベルで眼圧変動パターンは異なる。様々な薬剤が選択可能になった現在、個々の患者に応じたきめ細やかな眼圧管理が実現できる時代になってきた。そして、近年では神経再生機構の解明が進み、海外では脊髄損傷を対象とした治験も進められており、緑内障治療への応用にも大いに期待するところである。緑内障は多因子疾患であるため、その原因が複数に及び患者さんには、それに応じた多角的な治療を行うことが望ましいと考えられる。

今回、緑内障の介入可能な因子として「眼循環」「眼圧」「視神経」を取り上げた。これら因子の情報を整理し、現在の治療、そして将来的な治療の在り方について、皆さんと共に考えてみたいと思う。



## 講演1

眼循環から見えてきた  
緑内障の病態

演者

志賀 由己浩 先生

東北大学大学院医学系研究科  
眼科学分野 非常勤講師



## 講演2

眼圧変化から見た  
緑内障の病態

演者

井上 俊洋 先生

熊本大学大学院生命科学研究部  
眼科学分野 講師



## 講演3

神経再生機構：  
Rho-ROCKシグナルを中心に

演者

山下 俊英 先生

大阪大学大学院医学系研究科  
分子神経科学 教授

【本共催セミナーは整理券制となります。】